

行政視察報告書

令和5年8月7日

貝塚市議会議長 南野 敬介殿

自由市民 食野 雅由
田畑 庄司
出原 秀昭

[調査目的及び、訪問市]

第1日 令和5年7月26日(水)
国土交通省都市局 都市再生区画整理事業について
々 連続立体交差事業について

第2日 令和5年7月27日(木)
「深層地下水100%の安全供給」について
東京都 昭島市

第1日 令和5年7月26日

国土交通省都市局 都市再生区画整理事業について

我が会派自由市民の改選後初めての行政視察は、谷川とむ衆議院議員にお願いして、国土交通省都市局の官僚に谷川事務所に来て頂き、貝塚市が抱えているまちづくりの諸問題に対応するヒントを享受してもらう為をお願いしました。

当日、午前中に衆議院議員第一会館の谷川事務所に到着、時間があつたので、平素より



貝塚市に側面からサポートして頂いている片山さつき参議院議員と北村経夫参議院議員の事務所を表敬訪問し、引き続きの支援をお願いしてきました。

午後から所期の目的である国土交通省都市再生区画整理事業についてのレクチャーを受けました。国土交通省から都市局の市街地整備課 課長補佐 富本和也氏と同課 宅地整備係長 倉田 紘平氏にお

いで頂きレクチャーが始まりました。その中で、施行地区要件について説明して頂きました。その条件は、①施行面積×指定容積率/100×≧2.0ha、②直前の国勢調査に基づくDIDに係る地区、③市町村マスタープランなどの法に基づく計画等に位置づけ、④施行前の公共用地率15%未満の4項目でその全ての条件を満たさなければならないとの事です。また、この国費率は1/3で、重点地区に指定すれば1/2になるとお聞きしました。我が貝塚市のJR和泉橋本駅山側地区の区画整理事業においては、都市機能重点地区に指定される予定になっているので国費率1/2での採択が可能です。是非ともこの条件を満たし補助金確保に向けて取り組んでいきたいと思っております。また、この補助金の交付対象費用は、調査設計費、宅地整地費、移転費、公共施設工事費、電線類地下埋設施設整備費、公開空地整備費、立体換地建設物工事費、仮設建築物整備費、浸水対策施設整備費、防災関連施設整備費、機械器具費、エリマネ活動拠点施設整備費等であります。この交付対象費用を充分研究しより多くの補助金を獲得できるようにしなければならぬと思っておりました。加えて道路事業に対しての補助金も併せて利用できるということでこれも充分研究して取り組んでいくことを担当課に伝えたいと思っております。また、公共施設管理者負担金についても道路法における道路に対しても国庫補助の対象であることを確認してきました。これについては当該地区の府道の整備に活用していきたいと思っております。そして一連の説明を受けた後、質疑応答と意見交換をし、貝塚市が取り組んでいるJR和泉橋本駅山側地区の区画整理事業を充分国土交通省に陳情しました。

続いて、国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設企画室 課長補佐 松岡秀一氏に依頼して連続立体交差事業、貝塚市においては、南海貝塚駅周辺の整備に伴う、南海本線の高架化に関わる問題についてレクチャーを受けました。先ずもって施行者については、都道府県、政令市、県庁所在市、人口20万人以上の市、特別区でない事業主体をすることができないもので、貝塚市に於いては



事業主体を大阪府に依頼するしか取り組みの方法がないようです。とはいうものの、南海本線の高架化は市民ニーズがとても多く、今回貝塚市都市計画マスタープランから今まで掲げていた高架化を取り下げることは、我々にとっては、理解に苦しむものであります。今まで会派として都市計画審議会や本会議の一般質問等で市民の要望を理事者側に要望してきましたが、我々の思いは、届いておりません。この事業の実現性は、いくつかのハードルがあるのは理解できますが、計画を取り下げることは市民ニーズに答えていないものであります。これからも辛抱強く訴えていきたいと思っております。

終了後、参議院会館に向き自見はなこ内閣府政務官を訪問し、政府と貝塚市のパイプをしっかりと確認してまいりました。

第2日 令和5年7月27日（木）

「深層地下水100%の安全供給」について 東京都 昭島市

東京都内では、武蔵野市・羽村市・昭島市の3市のみが単独での水道事業を行なっているとのことで、深層地下水は昭島市のみで水道料金は全国で第4位に安いとのことです。

以前は、他の市町でも自主水源を持っていましたが、昭和での人口増加や産業の発展により設備の拡充の必要性や地盤沈下等もあり少しずつ減ってきたとのことです。

特に昭和45年都知事から水道局の一元化を勧められ順次水道局に編入していく中で多摩地区において27市から現在3市のみが独立で行っているとのことです。

昭島市は、東京都の区市町村において唯一深層地下水のみを水道水源としています。これは、他の地域に比べ地下水が豊富な位置に存在するからであるとのことです。

昭島市の地層は、多摩川の水の長年の作用により、水を通し貯める層である砂利層が厚く形成されました。こうしてできあがった厚い砂利層の上に存在するため昭島市は地下水が豊富であると言われていています。

昭島市の水道水源は、地下70メートルより深い層を流れる深層地下水をくみ上げています。深層地下水は、山に降った雨や雪が約30年という長い年月をかけてしみ込んだものです。水が地層にしみ込む過程において、土壌がフィルターの役割を果たし、不純物を取り除くとともに炭酸やミネラル成分等を溶かしながらしみ込みます。こうして流れてきた深層地下水を利用する昭島の水道は、ミネラルウォーターと変わらないおいしさでいただいたお水も非常に美味しくびっくりしました。

水源井から汲み上げられる地下水は水質が良く、沈殿やろ過という工程が不要でそのままでも飲用することができますが、水道法に適合させ、さらに安全な水道水とするため消毒処理をしています。消毒処理をするだけで法律上の水道水に適合させることが可能なため、

水質の調整をする手間がなく、くみ上げた地下水を新鮮な状態で配水することができます。

また水道処理設備を簡素化できるため、低コストでの運用が可能となり、市民の方にも低料金で給水することができます。



貝塚市水道事業の配水系統は、大きく2つの系統に分かれます。

概ね国道 26 号から浜手の津田給水区は、自己水系として、取水した地下水を、津田浄水場で処理した浄水を供給しています。地下水は、人為的な汚染を受けにくく、年間を通じて水温が一定しているという特徴があります。

それ以外の給水区へは、受水系として、大阪広域水道企業団が淀川原水を高度処理した浄水を購入して供給しています。蕎原浄水施設は受水系ですが、河川表流水を原水とする自己水系を予備的に使用しています。

津田浄水場の原水は、人為的な汚染を受けにくい深井戸の地下水です。地下水は地中に浸透する際に、ろ過作用及び生物による有機物等の分解作用を受けるため、地表水と比較して良好な水質を持つとされています。水温も年間を通して安定しているため、夏は冷たく冬は温かく感じます。しかし、地殻の成分を溶かし出すため、すべての深井戸から基準値を超える濃度の鉄・マンガンが検出されています。



その成分を除去し、おいしい水ができるまでの流れは、浄水処理施設更新前は、酸化剤として過マンガン酸カリウムを、凝集剤としてポリ塩化アルミニウムを注入し、凝集沈でんさせた後に急速ろ過方式により処理していました。施設更新後の現在は、生物接触ろ過方式による浄水処理を行っており、以前より薬品の使用量を減らしながらも、より良好な水質になっています。

今回の視察を通じて、自己水と大阪広域水道企業団からの受水という「水源の二元化」を堅持するとともに、計画的な水道施設・管路の耐震化や危機管理体制の充実に努めていく事に尽力していきます。